

南会津のうらみニュース

第53号 平成14年10月10日発行
福島県南会津農林事務所



今月の内容：今月のトピックス／特集1（環境に優しい農業を実践する「エコファーマー」の育成）／この人を知りたい（只見町・目黒章浩さん）／特集2（農業制度資金大幅に改正される）／今月のコラム／研修会・講習会等お知らせ

今月のトピックス

木の香りがいっぱい！ 南会津木材フェア開催



熱心に受講中

私 たちの住む南会津は、日本でも有数の豊かな森林資源に恵まれた地域で、木地師に代表されるような、「木を活かし、木と共に生きる」森林文化が育まれてきました。木のぬくもりを感じる機会が少なくなっている現代において、この素晴らしい森林文化を皆さんに紹介したいと、地域で木に携わっている方達が

結集し、「第2回南会津木材フェア」を9月21～22日の2日間、田島町の会津山村道場で開催しました。

フェア会場では、実行委員会を構成する各社が、木

を活かした自慢の木材・木工品を持ち寄り、大きな物では広葉樹から挽いたテーブル用板から椅子、座卓などを、小さな木工品類では無垢材による木のおもちゃやソバ打ち道具、各種漆器・食器類、太鼓などを展示しました。訪れた人達は、ぬくもりあふれる木工品を手にとってみたり、大きな広葉樹材にびっくりしながら会場を巡っていました。

また、来場者に実際に「木」に触れてもらおうと、太鼓作り体験、コマ作り体験、木工工作教室、丸太切り体験などの様々なイベントも開催され、子供達が歓声を上げて会場を走り回る光景が見られました。特に、日本でも数少なくなってしまった木挽き（こびき：製材機械では扱えない大きな材を鋸で挽く職人）の方の実演は大変珍しく、鋸を挽くごとにばあっと散る鋸屑はクスノキ特有のかぐわしい香りに満ちており、袋に詰めて持ち帰る来場者もいました。

皆さんももう一度、木の持つぬくもりややさしさを感じ取ってみてはいかがでしょうか。

（森林林業部）

「会津高原たていわ農産(有)」が誕生

9月6日、館岩村が主な出資者である農業生産法人「会津高原たていわ農産有限会社」が設立されました。市町村が出資する農業生産法人の誕生は、県内で第1号となります。

館岩村では、地方公共団体が農業生産法人の構成員となれるように農地法が改正されたことなどから、これまで農作業の受託などを行ってきた財団法人館岩村農業公社を発展させ、農業経営体として新たな法人を設立する機運が盛り上がってきていました。このため県では、平成13年度に館岩村を法人育成推進重点地区に指定し、農業生産法人設立の支援を行ってきました。

「会津高原たていわ農産有限会社」は、出資金1,150万円で作成され、代表取締役会長に村長の星光芳氏が、代表取締役社長に現館岩村農業公社常務理事の星喜久夫氏が就任しました。

今後、認定農業者並びに特定農業生産法人として地域農業の担い手をめざしており、その活躍が期待されています。

（農業振興部）

小学生の皆さんが訪ねてくれました！

総 総合的な学習の時間の一環として、9月18日、田島小学校の4年生のうち、5人の皆さんが南会津農林事務所を訪ねてくれました。

5人の皆さんは、農林事務所の働きや、南会津の農業について説明を聞いたあと、森の遊びや農業体験学習についてたくさん質問をしてくれました。

（地域農林企画室）



今後の活躍が期待されます



お勉強中です！

(特集1) 環境に優しい農業を実践する 「エコファーマー」の育成



食料や環境の安全性に対して国民の関心が高まる中、福島県では、将来に渡って農業が持続的に発展していく仕組みづくりに取り組んでいます。

県では、平成4年にこの仕組みづくりに着手し、どのような方法があるかについて検討し、「福島県環境保全型農業推進指針」を策定いたしました。

環境保全型農業とは、「環境に優しい農業」と言うこととなります。

では、環境に優しい農業を推進するには、どんな取り組みを行うかについてもう少し具体的に考えてみますと、それは「作物に優しい栽培方法の確立」と言うこととなります。

すなわち、化学農薬や化学肥料に頼った従来の栽培体系を見直し、作物を育てるための基本となる「土づくり」をしっかりと行うことで化学肥料を減じたり、天敵や性フェロモン剤などを活用することで化学農薬の使用量を抑えることなどです。このような取り組みを「環境に優しい農業」と位置づけています。

平成12年、県ではこうした「環境に優しい農業」を

推進するため、化学肥料や化学農薬使用量の低減基準を設定した「持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」を策定し、この基準に添って自ら計画を作って実践する農業者を育成し、平成14年8月20日現在、県全体で42名を認定しています。

こうして認定された農業者を「エコファーマー」の愛称で呼び、平成22年には県全体で3,000名のエコファーマーを誕生させる計画です。

南会津地方は、野菜や花きを経営の基幹とする農家が多く、関係機関・団体が一体となって園芸作物の振興に力を入れています。源流の上流域であり、当地方の環境保全に果たす役割は大きなものがあります。

食の安全性が叫ばれている今日、たくさんのおエコファーマーを育成することは、安全な食料の生産を担う産地のイメージアップにつながり、環境に優しい農業の実践にもつながることとなります。

エコファーマーへの理解と環境に優しい農業への実践に、皆さんの力をお貸しください。

(農業普及部)

この人を知りたい

県営ほ場整備 只見地区について

只見町 目黒章浩さん



平成14年6月、福島県農業土木技術連盟総会において只見町役場参事兼山村建設課長目黒章浩さんが功労者として表彰をうけました。目黒さんはゆったりと落ち着いた風貌を持ち、数多くの方々から信頼されており、人情味のある方です。目黒さんは役場生活の大半を農業土木事業に捧げられています。その中でも大きな思いである県営ほ場整備事業只見地区についてお話しをお聞きしました。

只見地区は昭和53年に計画着手され平成7年度に完成しました。面積431ha、総事業費46億円、ほ場整備というと1団地と思われるかも知れませんが、

この地区は19工区に分かれており、只見町を挙げての大事業でした。目黒さんは、ほ場整備対策室長として第8工区の長浜地区から拘まりました。只見町は豪雪地帯で工事期間が限定されることから、山積する課題を手際よく解決していかなければならず大変でした。特に大変だったのは伊南川の河川改修との関係で、河川断面が広く現況農地面積の確保が懸念され、関係者との調整が大変でした。河川改修は、塩の岐川合流点から只見川合流点までの約16kmの大改修でしたので、土木行政に詳しい目黒さんが適任とされ、中心となって交渉に当たりました。交渉は難航しましたが、

(3ページに続く)

(2 ページから続く)

目黒さんの人柄とねばり強い交渉でどうにか工事が着工出来ました。冬の旧駒止峠を通して約3年間に及ぶ交渉が成立したときは本当に肩の荷が下りたとのことでした。13年間に及ぶ工事が完了し、平成7年度に最終の権利者会議で全員のほ場が確定し、それぞれの方に権利証を渡した時は感極まるものがあったとのことでした。

目黒さんはほ場整備事業を進めるに当たっては、限られた時間内に処理するために「早めに処理をする」を信条にしてきたそうです。これからも健康に留意して、我々後輩の農業土木技術者の指導をお願いいたします。

(農村整備部)



特集!

(特集2) 農業制度資金 大幅に改正される

本年7月、担い手向け農業制度資金が大幅に改正されました。

大きな改正点の一つとして、一元化融資制度が設けられたことがあります。

一元化融資制度とは、資金を利用したいという農業

者が、担い手向け農業制度資金（農業近代化資金、農林公庫資金、農業改良資金）の中から、有利な資金を選択して、日頃取引のある民間金融機関等（JA等）に関係書類を提出すれば、関係する機関が相互に連絡を取り合って審査を行い、適切な資金を融資する制度です。

また、各担い手向け制度資金の性質、貸付対象者、資金用途等についても一部変更されました。（下表を参照して下さい。）

この他にも、認定農業者や新規就農者に対する県単独での金利の軽減措置等もありますので、詳しくは、南会津農林事務所農業振興部振興課

(電話：0241-62-5253) まで御連絡ください。

(農業振興部)

担い手向け制度資金の概要

区 分	農林公庫資金		農林近代化資金		農業改良資金	
	スーパーL資金	経営体育成強化資金	認定農業者向け資金	その他		
資金の性格	担い手の経営改善のための資金				高リスク農業へのチャレンジのための資金	
貸付対象者	認定農業者	認定農業者以外の担い手	認定農業者	認定農業者以外の担い手	認定農業者	認定農業者以外の担い手
資金用途	農地取得資金 施設資金等 長期運転資金	同左 (運転資金は一部のみ)	施設資金等 長期運転資金	同左 (運転資金は一部のみ)	施設資金等 長期運転資金	同左 (運転資金は一部のみ)
金 利	1.20~1.50% (H14,9.2現在)	1.50% (H14,9.2現在)	スーパーL 資金並み	経営体育成 強化資金並み	無利子	無利子
償 還 期 限	25年以内 (据置10年以内)	25年以内 (据置10年以内)	15年以内 (据置7年以内)	15年以内 (据置7年以内)	10年以内 (据置3年以内)	10年以内 (据置3年以内)
貸付限度額	個人1.5億円 法人5億円 (法人規模に応じて 増加できる)	個人1.5億円 法人5億円	個人1,800万円 法人2億円	個人1,800万円 法人2億円	個人1,800万円 法人5,000万円	個人1,800万円 法人5,000万円

会津鉄道抒情記

私が本事務所に赴任して以来、交通の足として会津鉄道を利用して、かれこれ1年半の月日が過ぎ、100km足らずの区間に展開する車窓の様々な風景にであったところです。

私の業務の関係から見ると、本線は121号国道とは異なり、河川東側の農村地域を通ることより、耕地の区画の変化を実際に眼で見ることができ、南若松から芦ノ牧温泉駅までの区間は、広大な会津盆地に展開する大型区画は場であり、50a、1ha区画が車窓の両側に展開し、この時期、青年農業者たちが大型コンバインを誇らしく堂々と操作し、たわわに実った稲の刈り取りをスピーディーに行っているのが見られます。まさに、高性能機械を駆使した農業を展開している地域であり、今年は芦ノ牧温泉駅付近で、大型ほ場の施行を見ることができます。

会津田島～会津荒海駅付近は、西側の車窓から、昭和40年代前半に施行された標準区画30a区画の水田の展開を見ることができますが、会津盆地の土壌構成とは異なり、砂質分が多く茶褐色の土壌が多く見られます。また、営農機械は中規模程度です。

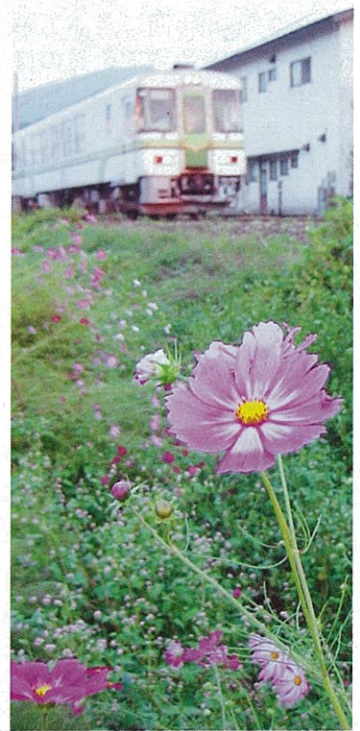
会津鉄道のほぼ中間地点となる、会津下郷駅近くの沢田地内にも車窓東側に、整然と整理された大型区画の耕地を見ることができますが、よく見ると地形傾斜が急であり、山麓に迫ると区画が狭小となっているのが分かります。

風景全般的に言うならば、阿賀野川を中心とした山間狭小地域である故に、巨大な大川ダム、塔のへつりを中心に滝も含めた急峻なる峡谷地域、冬でも緑豊かな森林地域、田園地帯にある会津長野駅を始めとするのどかな駅舎の数々が所狭しと点在し、本線沿いの花卉栽培や野菜栽培の四季の変化も加わり、農林地域が育む自然豊かな多くの抒情を描き出してくれるのです。

夜の列車となると、揺れの少ない速度で走行してくれることから、読書の時間となり、好きな本を読みあさり、夢想の世界に浸る一時を過ごすことができます。

最後に、ちょっと辛口ですが、会津鉄道をより良い足とするために一言。最近、大変きれいで素晴らしい車両も導入されていますが、その他の車両室内の環境の改善を、南から北上してくる別会社の車両並になることを希望したいと思います。

(農村整備部長 瓶子敏行)



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
① 農業者のためのインターネット利用の基礎	11月 6日 (水)	農業短期大学校 (矢吹町)
② 小型農業機械の点検整備	11月 7日 (木)	農業短期大学校 (矢吹町)
③ 環境と調和した農業の実践事例	11月15日 (金)	農業短期大学校 (矢吹町)
④ 農業機械作業のコスト計算と作業安全管理	11月 6日 (水) ～20日 (水)	農業短期大学校 (矢吹町)
⑤ トラクタ基本運転(3)	11月25日 (月) ～28日 (木)	農業短期大学校 (矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866
農業普及部 TEL 0241-62-5262



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
(撮影:鈴木(清))
秋のブナ林(檜枝岐村)



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

